



自治連だより

第35号



鳥取市自治連合会
会長 土橋 周美

あいさつ

皆様には日頃から、本会の運営及び活動に多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の国内発生から三年以上が経過し、ようやくコロナ禍の長いトンネルから脱出し、世の中はアフターコロナの時代へ変化しつつあります。

近年は核家族化の進展とともに、住民の生活や意識が多様化していることに加え、人口減少、少子化、超高齢化、防災対策など地域の課題も複雑化してきております。

地域には多くの課題がございますが、これらに対処していくためには、自治会が主体となつて、住民参加による良好なコミュニケーション形成を行い、連帯感を深めることが、非常に重要であると考えます。

自治連合会としましては、組織の強化に努めるとともに、行政との連携・協働をさらに進め、地域コミュニケーション活動を活発に展開し、住民の皆さんが安全で安心して健やかに暮らせるまちづくりの実現に取り組んでまいります。

会員の皆様には、引き続き、変わらぬご指導、ご協力、ご支援をお願い申し上げます。

気高地区

「貝がら節」で

浜村のまちづくりを

きらり☆浜村まちづくり協議会

会長 地原 伸

あります。貝がら節が流れ、湯けむりと一種独特の温泉街のにおいと賑わいがあったことを今でも覚えております。

本協議会としては、昔の賑やかさを取り戻そうと各団体や住民で浜村の伝統文化、自然、食材等を活用しながら取り組んでおり、特に力を入れていることは学校との関わり方です。浜村小学校や気高中学校は授業で貝がら節踊りに取り組んでおられ、運動会はもとより地域のイベントにも参加し、地域住民と一緒に踊ることで人づくりまちづくりに繋がっており、我々も保存会のみなさんと学校に向いて指導を行っているところです。これまで参加したイベントとしては、昨年の七月三十日に鳥取砂丘コナン空港での「サマーフェスティバル」、十一月二十三日の「ときめき祭り」での保存会とのコラボ、三月五日の「しようがぼかぼかフェスタ2023」への参加があります。フェスタでは小学四、五年生が参加し、歩行者天国の街中を元氣よく踊りました。沿道には多くの人並みができ、あちらこちらで「こんなに人がおんさつただか」「こんな催しにまた来たいなあ」と言った声が聞こえ、こりゃあ皆さんの期待にこたえられるように頑張らんといいんなあと思つた次第です。さら



しようがぼかぼかフェスタ



ときめき祭り

帰りに道に芸者さん等に会うことができて、それを楽しくドキドキしながら帰った思い出が

には、五月二十一日の四年ぶりに開催した町民運動会では児童全員が踊りを披露し、十五集落の住民と児童が一体となつて貝がら節に酔いしれました。今回は児童も集落のテントでスタートし、子どもたちも地域の一員となつて声援し、送り出してもらつたことでテンションが「近所づくり」の一助となり、笑顔であいさつを交わしている姿を見て、やっぱりこれが本来のまちづくりだなと感じ入つたところです。そして、中学校から浜小OB男女三十名が準備等に自主的に参加する光景を見て、ここでも浜村の伝統と絆を改めて認識した次第です。現在、浜村は山陰自動車道開通頃から移住の方が増え、四つの小学校の統合が決まり、場所は浜村駅裏周辺が候補地となつております。本協議会としても十年後、二十年後を見据え、将来の浜村を担う子どもたちの思いを聞き、一緒に踊りながら明日の浜村を学校統合を契機に「新たなまちづくり」として頑張ろうと関係者で盛り上がりつつあります。

遷喬地区

コンビネーションスクール
を活用した地域おこし

遷喬地区自治会
会長 橋尾泰博

地区の核である遷喬小学校は、昨年の令和四年十二月一日、創立百五十周年を迎えました。この地域は、商業者の街として栄え、鳥取市の文化、経済の中心でありました。

時が経つのは早いもので、我が国が体験したことのない人口減少社会に変化し、今後、更に少子高齢化が進み、今世紀末には日本の人口は半分になると試算されています。

遷喬地区は現在、総世帯数千六百三十三世帯（高齢者世帯五百七十五世帯、五十四・一％）、人口二千五百五十六人の内、十四歳以下二百十八人（十・一％）、六十五歳以上七百九十八人（三十七％）



サマーフェスティバル 遷喬



遷喬地区とんどまつり

と他地区に先駆け、超高齢化社会の地区であります。

地区の特徴は、鳥取市唯一のコンビネーションスクール（小学校と公民館が同じ建物に併設）であることです。この環境は、小学校を核として、児童と地域住民が様々な場面で交流出来る距離感であり、児童の見守り、子育て支援などやり易い環境が整っております。児童も地区の人の顔を覚え、落ち着いた雰囲気です。

この様に地域の連帯感が強く、地域住民が参加する年賀行事「遷喬地区とんどまつり」を四十五年間実施しております。地区合同大運動会ももちろんあります。

次の展開として、昨年の創立記念事業として完成した、「地域とふれあう」みんなのあおぞら農園」での交流、遷喬の森などの環境整備を共同で進めるボランティア組織「緑の奉仕団」事業に取り組んでみたいと考えています。

佐治地区

限りある資源を
地域のために

佐治町まちづくり協議会
会長 小谷繁喜

まちづくり協議会をはじめとして、佐治町の小中PTA、婦人会、中学校同窓会（柏会）などの団体も年一回資源回収事業を実施されていますが、年々、一時的な回収事業では思うように集まらなくなってきたりするように思われます。原因としては、地域の人口減少と高齢化に加え各団体の構成員の減少や自宅での保管管理のわずらわしさ等が考えられます。

そこで、一年を通して資源を自由にいつでも置いてもらえる常設の資源回収ボックスを設置することで、一時的な回収事業以外の時でも回収が進むよ



資源回収ボックスの状況



資源回収ボックス組立て中

うにし、限りある資源を地域のために還元できるように取り組むこととして、昨年度に佐治町総合支所対岸の市有地に資源回収ボックスを設置しました。

日常的な維持管理は、まちづくり協議会（地域環境部）で行い、資源回収ボックスで集まった資源回収の奨励金等は、維持管理に係る経費を除いてすべて関係団体（小中PTA、婦人会、柏会）に均等に配分し、地域づくりの活動資金として活用してもらおうようにしています。

今後は、設置した資源回収ボックスの利用状況等をみながら、必要に応じて増設なども検討し、更なる資源の有効活用に取り組むたいと考えています。

日進地区

日進地区のまちづくり活動について

日進地区自治連合会

会長 入江峰生

日進地区は鳥取駅前の繁華街地区と住宅地域の十六町内会の加入世帯数約千三百九十世帯で構成されております。集合住宅の増加や少子高齢化で年々減少傾向です。まちづくり活動として次の四部会で各種事業を行っております。

第一部会 にぎわいのある街づくり

○住民が集い・交流を深めるイベントとして、毎年八月に地区納涼祭（きんさい祭り）を開催しており地区一番の大イベントで、コロナ禍の為中止してまいりました。感染症法上の位置付けが五類に引き下げられ四年ぶりに開催する予定です。

○人が集まるにぎわい広場として公民館事業へ積極的に協力してまいります。

第二部会 らしい街づくり

○きれいな街づくりとして地区内の



日進地区納涼祭

街並を花で飾る活動を実践していきます。

○安全な通学路対策として交通安全教室・通学路調査会を行っております。

第三部会 防犯・防災対策が徹底しているまちづくり

○地区内防災対策として防災リーダーの拡充の為の受講支援、防災訓練及び避難所設営に係わる資機材の整備を進めてまいります。

○児童の防犯・交通安全対策としてホットライト委員会と連携して下校時巡回見守り、日進小・南中のCS運動への協力として登校時のあいさつ運動・花づくりを実践しております。

第四部会 健康を推進するまちづくり

○健康づくりとして地域・小学校合同運動会、ウォーキング、ペタンク大会、グラウンドゴルフなどで小学生との交流会を開催しております。今後の課題ですが、中核メンバーの高齢化と固定化、町内会加入世帯の減少等、山積している状況です。

※CS運動：地域の人も一緒になって学校運営を高める運動



クリスマスイルミネーションイベント

中ノ郷地区

コロナ後のリスタート

正解がない答えを地域で模索中

中ノ郷ふるさとづくり協議会

会長 福浜隆宏

中ノ郷地区は、久松山の砂丘（北東）側に位置し、人口は三千七百余人。平安時代から因幡地方の信仰を集めてきた摩尼寺があります。平成初期、北園ニュータウンが造成されたのを契機に小学校が再建され来年、地区創立三十周年を迎えます。

「新たに生まれた地区を盛り上げよう」と汗を流された先人の御尽力のおかげで夏の納涼祭には、他地区からの来場者もあるなど、市内屈指と言われらるほどです。

しかし、高齢化の波は、例外なく当地区にも押し寄せ、免許返納後の生活を不安視する声が聞こえるようになりました。

そこで全戸対象に移動販売車のニーズ調査を実施。その結果を基に交渉した結果、二町への移動販売車の定期訪問が実現する運びとなりました。



移動販売車の訪問（今年2月）

意向調査は、地区行事の企画運営を主な役割

としてきた当協議会において初の試みでしたが、『安心できる地域』に踏み出したこの一歩を、今後の糧として参りたいと考えています。

ところで、町内会の加入率は直近データ（昨年五月時点）で、市全体が六十三％。当地区も七十七％と低下傾向です。

公助に依存し過ぎず、『出来ることは自分たちで』という共助精神の育成は地区行事への住民参画が大きなきっかけになっていきますが、役員の負担軽減を求める声とのバランスを無視すれば町内会からの離脱が益々増える恐れも十分考えられます。

とりわけ丸三年、コロナ禍で事実上地区行事がストップしてきただけに、リスタートをどう図るのか？令和五年は、地域づくりの大きな岐路と言っても過言ではないのかも知れません。こうした議論を重ねた上で、五月に小学校と地区合同での運動会が四年ぶりに復活。七月には納涼祭も通常開催の予定です。

正解がない答えを地域で模索することこそが地域づくりに繋がると信じて前進する所存です。



小学校・地区合同運動会（今年5月）



トレイルロード整備作業

近年、健康志向が強まる中で、低山ブーム到来と言われている。湖南地区南部には、箕上山（標高三百メートル）が位置している。「箕上山に昇る陽の……」は、旧湖南小学校校歌の一節である。

戦国時代には、羽柴秀吉の軍勢を破った吉岡将監の居城が築かれていた。江戸時代（文化元年）には藩主池田家の姫君姉妹が吉岡温泉に逗留し、散策に出かけ、山腹にある巨岩「つぶせ岩」に登って眺望を楽しんだという記録も残っている。

箕上山山頂からの眺望は絶景であり、まさに天空の城とも言われている。しかし、年々訪れる人の数は減り、わずかに痕跡を残していた登山道も荒廃していた。このようなかで、まちづくり協議会



湖南ウオーク箕上山城跡にて

（歴史文化委員会）では、令和四年度から鳥取市の支援を受けて箕上山トレイルロードの整備に取り組んでいる。自治会としても主要事業として位置付け、全面的に支援している。

昨年秋には地区住民ボランティアにより除草、伐採作業を行った。十一月には開設記念ウォークを開催し地区内外から多くの方に参加して頂いた。今年度の完成を目指している。

今回の整備事業を通して、地区住民には、地区の歴史や文化を再認識する機会を提供し、地区を訪れる方々には、絶景と往時を偲ぶ機会を提供することにより、地域の活性化に貢献することを期待している。

令和三年度には、温泉施設「一ノ湯」の裏山である秋葉山の西国三十三所巡りロードも整備されている。これらのロードのウォーキング後は一ノ湯でゆっくりと汗を流して頂きたいと考えている。

鳥取県自治会連合会の動き

令和四年度

◇中四国ブロック会研修会（二月八日、山口県長門市）

山口県長門市において各県連合会の代表者等百五十名が集い開催され、鳥取県自治会連合会から十三名が参加した。広島・鳥取・高知三県の代表者が、「自治会における防災活動の取り組み」について発表し、その後意見交換を行った。

令和五年度

◇令和四年度監査会（四月四日、鳥取市）

◇第一回正副会長会（四月二十五日、倉吉市役所）

◇令和五年度総会及び研修会（五月二十四日、鳥取市役所）

◎総会

・令和四年度事業報告及び収支決算報告、監査報告

・令和五年度事業計画（案）及び収支予算（案）

・役員選出

会長	田邊 忠雄	(米子)
副会長	生田 均	(倉吉)
副会長	土橋 周美	(鳥取)
理事	高野 和男	(米子)
理事	近藤 豊	(米子)
理事	松本 眞	(米子)
理事	内藤 英二	(米子)
理事	米舩 隆生	(倉吉)
理事	明里 利彦	(倉吉)
理事	米田 清隆	(倉吉)
理事	福田 正美	(鳥取)
理事	西原 牧夫	(鳥取)
理事	水田 憲夫	(鳥取)
理事	谷口 真澄	(鳥取)
理事	西川 功美	(鳥取)
監事	新見 博士	(米子)
監事	福景 順一	(米子)

※研修会は、鳥取市危機管理課による、「鳥取市の防災」について、説明を受ける予定でしたが、台風三号接近により中止

後記

自治連だより第三十五号の発刊に際し、原稿依頼に快く応じていただきありがとうございました。この度の原稿には、コロナ禍が幾分落ち着いてきたことにより、各地区の会長さんや役員の方々が自治会活動や、まちづくり活動に積極的に取り組んでおられる様子が紹介されました。その中で、順調に活動を再開された地区がある反面、私の地区（用瀬）も含め他の地区におかれましてはコロナ禍後の地区の行事などの再開に向けての問題点も提起されています。今後、地区の行事など、このように行えばうまくいったよ。などの情報提供を頂ければ、これから地区を盛り上げていくための参考になると思われまふ。ご提案、ご意見をお待ちしております。最後に発刊に当たり、広報委員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。（広報委員長 西川 功美）